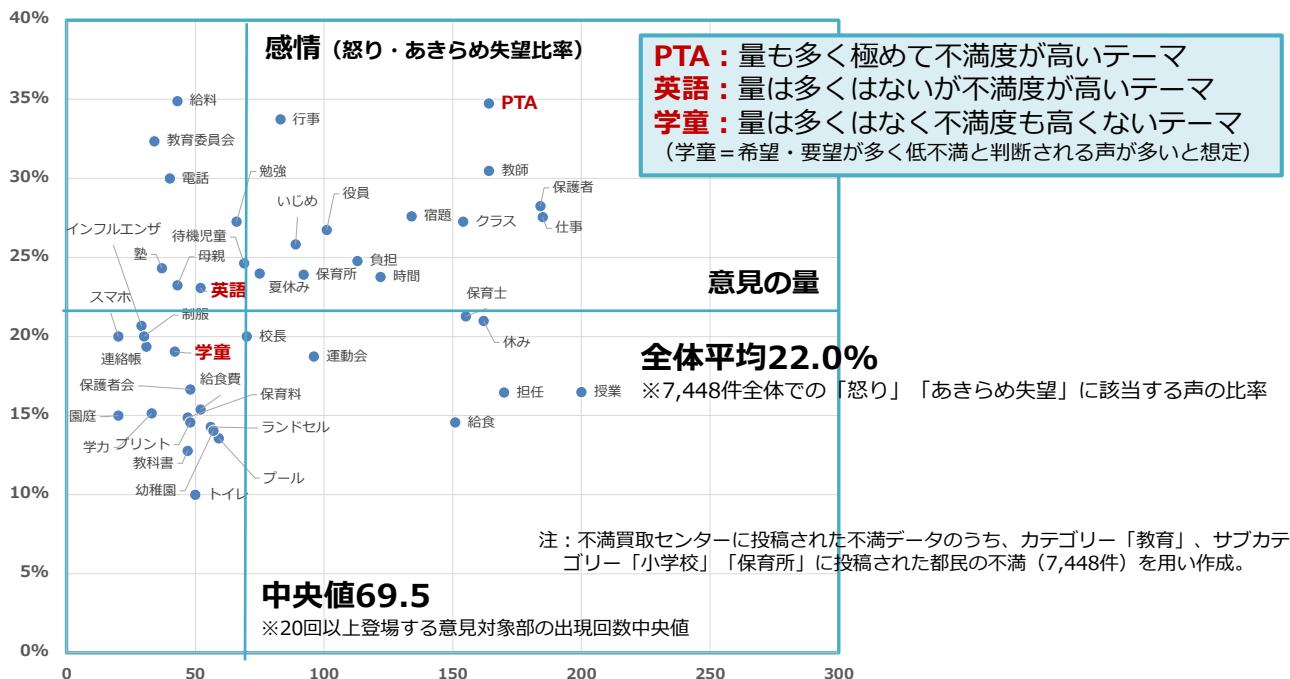


3.優先テーマの絞り込み

単に意見の量だけでは課題の優先順位はつけられません。そこで、不満の強さを分類する「感情分類 AI」を用い、「優先課題図」を作成し、優先テーマを絞り込みました。



AI でプロットされたキーワードを踏まえ議論した結果、①不満の量も多く極めて不満度が高いテーマとして「PTA」、②不満の量は多くないが不満度が高い「英語」、③不満よりも比較的希望・要望が多い「学童」を優先テーマとすることに致しました。

4.優先テーマにおける「課題」の深掘

「PTA」、「学童」、「英語」に関して、子供がいる世帯を対象に、より詳細な本音を聴取するアンケート調査を実施し、課題の本質を深掘しました。

(1) PTA

現状	課題・期待 (意見タグAI・可視化AI・感情分類AI)
<ul style="list-style-type: none"> ● 高学年の子供がいる世帯では55.1%が役員経験あり。 ● 特に専業主婦・パートアルバイトでは経験率が高い。 ● 37.8%は「有意義だが一部外部委託の検討を」。卒業済み世帯でも同様の認識。 ● ただし世帯年収が低い層では「外部委託」に慎重な意向。経済的負担を懸念か。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 有意義であることを前提に、一部外部委託を期待する層が最多。 ● この背景には、 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 活動自体の非効率性 ✓ (非効率故) 役員の負担感 ✓ (負担感故) 職業による不公平感 といった「負の連鎖」が存在。 ● 結果、やりたいかどうか、ではなくやれるかどうか論点となりPTAの意義を低下させている懸念。 ● 全国と比較してもフルタイムでの共働きが標準世帯となっている東京都においては特に上記「負の連鎖」への対応が必要となる可能性。 ● 但し、世帯の多様性 (PTA参加に意欲がある層も存在) や世帯の経済状況の違いを勘案すれば、「即アウトソース」という対応も乱暴な可能性。
<p style="text-align: center;">都民の傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ● PTA参加・役員経験率は全国と大きな差異はない。 ● 34.7%が「有意義だが一部外部頂くの検討を」と評価している。 	

(2)学童

現状	課題・期待 (意見タグAI・可視化AI)
<ul style="list-style-type: none"> ● 低学年・高学年両方いる世帯では27.5%が学童を利用。 ● 卒業済みの世帯の利用経験率よりも現小学生世帯での利用経験率が高く、学童の重要性は上昇。 ● 値段・時間等の不満に加え、職員の対応や宿題のサポート、喧嘩・いじめの対応など安心して預けられるきめ細やかさが不満視。 <div style="background-color: #0070C0; color: white; text-align: center; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 都民の傾向 </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 東京都では全国よりも利用率・利用経験率ともに高く、子育て世代にとって重要な役割。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供の放課後の過ごし方としては以下がまとまった意見として存在。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ まず宿題を終わらせてほしい ✓ 塾だけでなく習い事もさせたい ✓ 好きなことを見つけてほしい ● そのほか、トピックスとしては以下が存在。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 不審者が心配 ✓ 公園などで外遊びさせたい ✓ 遊ぶ時間が少なくなっている ● 学童利用者は全体の3割未満であることを踏まえると、学童の改善・強化はもとより、子供が安心して遊ぶことができる環境整備も優先度が高いと史料。

(3)小学校での英語教育

現状	課題・期待 (意見タグAI・可視化AI)
<ul style="list-style-type: none"> ● 低学年・高学年両方いる世帯では31.9%が英語塾に通塾している。 ● 世帯年収が高いほど通塾率が高く小学校の中でも英語に対する瀕職機会が異なる層が混在。 <div style="background-color: #0070C0; color: white; text-align: center; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 都民の傾向 </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 東京都では全国よりも「現在通わせている」「通わせたことがある」ともに高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校への英語教育への期待としては以下のような声が目立つ。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 身につく英語を ✓ 苦手意識を持たせないように ✓ 会話が出来るように ● そのほか、トピックスとしては以下が存在。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ ネイティブな発音 ✓ 外国・ネイティブの先生 ✓ コミュニケーションできる英語 ● 総じて文法や受験対策としてではなく、「聞く」「話す」などのコミュニケーションへの期待が強い。 ● 東京都では小学校以外での英語との接触機会をもつ子供が多いことからその「格差」への対応が必要。

5.今後の予定

<8月～9月 更なる検証>

(1)顔の見える関係での意見交換

各テーマに関心のある方々による座談会や事業運営者へのヒアリングなどを通じて、課題に直面する当事者の求める支援について考えます。

(2)区市町村ごとの実態調査

議会局調査部から区市町村へのアンケート調査を実施し、自治体ごとの取組の特徴や差異、それに付随する課題を捉えています。その際も、インサイトテック社のノウハウが活かされるものと期待しています。

<10月～ 解決策の模索・政策提言へ>

都と区市町村の関係性も踏まえ、利用者・運営事業者の本質的な課題解決に資する提言へ向けて議論を進めていきます。

■ 東京都議会 無所属 東京みらい（幹事長 奥澤高広）

東京都議会議員 奥澤高広（町田市選出）、斉藤れいな（多摩市・稲城市選出）、森澤恭子（品川区選出）の3人の会派。2019年1月に結成。これまでの政治家のあり方にとらわれず、政治と民間の間にある新しい答えをみつける挑戦をしています。

公式ホームページ <https://tokyo-mirai.net/>

■ 株式会社 Insight Tech（代表者 伊藤友博）

2012年に設立、事業内容はマーケティング調査やレポート作成、自然言語処理・機械学習などの人工知能を利用したデータ解析受託等。

公式ホームページ <http://insight-tech.co.jp/>

〈本件に関する報道関係の皆様のお問合せ先〉
株式会社 Insight Tech 広報担当:渡部(ワタベ)
TEL: 03-3342-6710 FAX: 03-3342-4944 MAIL: pr@insight-tech.co.jp